3月4日号
(昭和24年5月10日)
第2664号
2004年(平成16年)
第三種郵便物認可

海上保安新聞

発行所 財団法人 海上保安協会
〒104-0045 東京都中央区築地 5－3－1
電話 03－3542－3678～9
FAX 03－3541－0085
E-mail:kaiho-shinbun@jcga.or.jp
(毎週木曜日発行)
購読料 月極610円 送料共

しなやかな発想で21世紀
日昇印刷株式会社
〒104-0043 東京都中央区湊1－14－14
TEL 03-3553-3161~4
FAX 03-3551-4898

海賊対策専門家会合

初のアジア地域長官級会合

6月に東京で開催へ

東南アジアで多発している海賊対策を協議するため、17カ国・地域が参加した「海賊対策専門家会合」が2月26、27の両日、タイのパタヤで開かれた。各国の海賊対策の取り組み、連携協力を確認しあうなど、複数国の固定机上訓練を実施することなど合意、日本の提案で「アジア地域海上保安機関長官級会合（仮称）」を、6月に東京で初開催する方向で合意した。27日には、海賊対応パトロールのために派遣されている海上保安庁の巡視船「りゅうきゅう」（千一管）と、タイ海上警察などの海賊対策連携訓練を視察した。

専門家会合は平成12年11月（マレーシア）、14年3月（インドネシア）、15年3月（フィリピン）に続き4回目。東南アジア諸国連合（ASEAN）10カ国と日本、中国、韓国、インド、バングラデシュ、スリランカ、香港の17カ国・地域の海上保安機関と国際海事局（IMB）海賊情報センターなどが参加、海上保安庁からは金子良太郎次長、松原逸朗国際海事課長らが出席した。

主な議題は最近の海賊事件発生状況、海賊対策の取り組み、連携協力推進の確保策で「アジア地域海上保安機関長官級会合」の開催を提案した。初めての会合は6月に東京で開催する方向で合意した。

日本は、海賊、海上テロ対策を内容とする海上セキュリティーの効率的な強化を検討するため、「アジア地域海上保安機関長官級会合」を提案した。初めての会合は6月に東京で開催する方向で合意した。

巡視船パトロールは、海上テロ対策を含めた海上セキュリティーの強化を目的として、巡視船「りゅうきゅう」を搭載ヘリが捜索した。

巡視船「りゅうきゅう」は、タイ海上警察などの巡視船艇4隻が参加、海事局がチャーターした貨物船を使い「りゅうきゅう」搭載ヘリが捜索した。

「りゅうきゅう」は29日にレムチャバンを出港、フィリピン・マニラに向かい、3月9、10日に行われるフィリピン海岸警備隊（PCG）の海上法令執行研修訓練に協力する。

タイで行われた海賊対策連携訓練

巡視船「りゅうきゅう」

タイと連携訓練実施

海上保安庁の巡視船「りゅうきゅう」とタイ海上警察、タイ海賊対策センターなどの連携訓練は、「海賊シンジャック」の貨物船を拿捕し、安全な港に誘導して海賊を制圧した。

「りゅうきゅう」は、タイ海上警察を海上保安庁

17カ国・地域が参加した海賊対策専門家会合

北朝鮮工作船

海上防災基地に移設

東京・お台場から横浜へ

東京で一般公開された北朝鮮工作船の移設作業が2月25、26日行われ、お台場に現そう された横浜海上防災基地に運ばれた。搭載されていた本部の横浜海上防災基地に保管された。

船の科学館では25日、重量約60トン、全長約30メートル、幅5メートルの工作船が、起重機船の巨大なクレーンでゆっくりと吊り上げられた。巡視艇が工作船の移設作業が2時半から開始され、貨物船に乗せられ横浜海上防災基地に運ばれた。搭載されていた小型用艇ストレーラーで防災基地に陸送されていた。

船の科学館では、一般公開には1600万人を超える見学者が訪れた。再公開に向けて展示室が建設される。搭載されていた武器類とともに、10月から再公開の予定だ。

工作船の陸揚げは26日に行われた。陸上げは仮置き場の設置されたが、屋根付きの展示室が建設される。搭載されていた武器類とともに、10月から再公開の予定だ。

巨大クレーンで貨物船に運ばれる北朝鮮工作船（2月25日、船の科学館で）

SOLAS条約改正に伴い国内法を整備

船舶・港湾の保安確保の法律案、国会に提出

7月に発効する改正海上人命安全（SOLAS）条約に伴う、国際海運船舶及び国際港湾施設の保安の確保等に関する法律案が2月24日の閣議で決定され、今週常国会に提出された。

法律案の概要は次の通り。

①国際航海に従事する旅客船や3000トン以上の貨物船は、保安（自己警備）計画の作成・実施、船舶警報、保安設備の設置、保安管理者の選任を行い、国による保安計画の承認を受け、船舶によって港湾施設などに危険が生じる恐れがあるときは、必要に応じて立入検査を行う。情報提供要求・立入検査を指示した場合や、②国際港湾施設も、保安計画の作成・実施、フェンス、照明などの保安設備の設置、保安管理者の選任を行い、国による保安計画の承認を受け、③海上保安庁長官は、国から外国籍貨物船の保安計画の承認を通報され、保安計画の交付を受ける。情報提供要求・立入検査を指示した場合や、船舶に対して立入検査を行う。

週間海難情報

2月23日(月)～2月29日(日)

今週海上保安庁が救助した船舶人命は6隻、16人だった。

種類	別	隻数
衝突		6
乗り揚げ		3
転覆		3
火災		1
爆発		0
浸水		1
機関故障		5
推進故障		2
舵故障		0
行方不明		0
その他		4
計		25

緊急援助隊を派遣

海上保安庁からも5人

コロッコ地震 モロッコ

政府は、モロッコ地震（日本時間2月24日午前1時27分発生）の被害者救出のため、国際緊急援助隊救助チーム25人を25日派遣した。

海上保安庁からは5人が参加した。

警察官7人、消防官7人、海上保安庁5人、国際協力機構（JICA）3人、外務省職員1人の計23人で構成。現地で生存者の捜索、救助にあたった。

海上保安庁の派遣は平成8年10月、エクアドル沖地震で巡視船「羽田特殊救難隊」（▽中野孝之隊長）が、昨年5月のアルジェリア地震では、「がれきの下から男性（▽村上勇（同）▽小野寺政貴（横浜いすゞ））▽村上勇（同）」を救出している。

救助チームは3月1日午後、任務を終え帰国した。

派遣された隊員は次の通り。（敬称略）

玉越哲治（国際・危機管理室）▽船越健人（羽田特殊救難隊）▽中野孝之（横浜いすゞ）

海風

▼「緊張して います」。青年はまだ言葉を切っている。私は、その横顔をながめていた。身も心もコチコチなのが見て取れる。話す言葉を探しているようだ。

▼ふと、私の脳裏に、50年の西暦。私は、その頃の自分の姿を思い浮かべていた。わずか10歳の少年だった。